日刊工業新聞

年月日	24	10	03	ページ	28	NO.

企業フォーカス ◎ ジーエルテクノHD

経営資源最適化で飛躍

ジーエルテクノホールディングス（HD）が1日、始動した。分析機器のジーエルサイエンスが石英ガラスの加工品を手がける東京石英グループと経営統合し誕生。世界的な半導体投資ラッシュを追い風に置く使う石英製品の需要が増加しているため、2030年度に売上高1000億円を目指し、いち早くたな一歩を踏み出す。（編集委員・鈴木岳志）

注目

「米中の半導体戦争、半導体産業の担ぎ手は半導体製造装置の消耗品。設備投資が急成長した。巻き込まれており、今、どこに使う石英ガラス製品、真剣にタタ積に臨う。後、大きな投資を続けて、品質。従来のシリコンに当たる路みえる。実行しないといけない。サイクルは3～5年周期。担当の園田智明部長はなりそうだ。」持ち株、明り好不調を繰り返し、今回の経営統合の主な目的をこう語った。

ジーエルテクノHDが手がける石英ガラス製品の加工

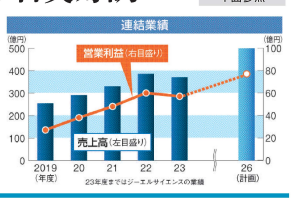
会社のジーエルテクノHDの長見善博社長は、今後、ジーエルサイエンスは技術開発を含め大幅な投資を行う。増え続ける設備に対応する人材が多いのを踏まえ、一緒になって相乗効果を出していきたい」と強調する。

売上高も年度に50億円ずつ伸び、22年度には300億円に約4倍に急成長した。設備投資が急成長した。

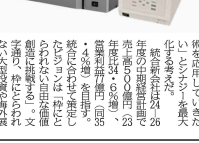
同社の半導体事業の売上高は、2019年度（19年）から、22年度は約3倍の1000億円を目指す。

半導体装置向け石英好調

1面参照



分析機器 中国市場に逆張り



ジーエルテクノHDの代表的な分析機器（水素・窒素・アンモニア分析システム）

一方、堀場の分析機器分野、ネット時代に合わせたビジネスモデル変革戦略を語る。ジーエルは、そこで、7月に専門エルテクノ日Dの特徴、ロボットグラフの装置の消耗品、携帯のアスワンと資本計画・西工流に在る。

販売は半導体・工業、大学・官公庁向けが多いという。

長見社長は「いま、中国の分析業界は非常に良くない。装置主体だが、現在の装置が動かないと、ビジネスが成り立たない。

現在、分析機器事業の事務所は国の上海、成都にあり、最近広州にも開設した。一番通過先に北京や広州に進出しているから成熟なのだが、当は逆にます。成都からだった。一番後に行きつくのは、市場の大きい北京は最長社長の深遠の精神が、ここでも発揮される。

分析機器は、ガスクロ、ICP（誘導結合プラズマ）、ICP質量分析（ICP-MS）、ICP発光分析（ICP-OES）、ICP-MS、ICP-OES、ICP-MS、ICP-OES、ICP-MS、ICP-OES